

## 1. 利根川

### （1）水域の概況

利根川は、群馬県の大水上山(標高 1,840m)に源を発し、幾つもの川と合流したり、分派したりしたのち千葉県銚子市で太平洋に注ぐ我が国を代表する大河川である。流域は東京都、群馬県、千葉県、茨城県、栃木県、埼玉県の 1 都 5 県にまたがり、水源から河口までの支川を含めた流路延長は約 6,700km、流域面積は 16,840km<sup>2</sup> に及んでいる。

### （2）水質

#### ・水域類型指定状況（図：参考資料 2）

既存生活環境項目（BOD、COD、全窒素、全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目）の水域類型指定状況は、河川が利根川上流(1)、(2)、(3)、(4)、中流、下流の 6 区分で、利根川上流(1)（谷川橋より上流）が AA 類型、それより下流が A 類型に指定されている。矢木沢ダム貯水池、藤原ダム貯水池は湖沼として A 及び B 類型、奈良俣ダム貯水池は A 及び B 類型に指定されている。

#### ・水質汚濁の状況（P 1 2 ~ P 1 6）

BOD75%値の 5 年平均で見ると、水質の改善の傾向は見られているが、水郷大橋（佐原）地点等において基準を超過しており、近年（平成 12～16 年度）では利根川下流を除き、BOD 環境基準を達成している。昭和 60～平成 11 年度においても、5 年平均で見ると、利根川下流を除き、概ね環境基準を達成している。平成 15～17 年度の溶存酸素濃度(DO)は、利根川下流で最小値が環境基準値を下回る地点もある。

藤原ダム、矢木沢ダム、奈良俣ダムは、平成 15 年～17 年のデータを見ると COD、全リンの環境基準を達成している。基準設定のない全窒素は、0.2～0.5mg/L。

#### ・亜鉛の水質の状況（P 1 7）

全亜鉛は、年度によってばらつきが見られるが、平成 17 年度の調査結果からは、概ね 0.02mg/L 以下である。

なお、平成 15 年度に利根川上流(3)の水域の吾妻川合流前や板東橋直下で 0.03、0.04mg/L となったが、その後の超過はなく、一時的な超過であり、原因は不明である。

また、坂東大橋、刀水橋付近で年度によって比較的高めの濃度がみられる。

なお、利根川流域では、年間排出量が1,000kg超、100kg超、10kg超、1kg超、1kg以下で順に、1, 9, 5, 5, 6の事業場がある。(平成16年度PRTRデータより)

### (3) 水温 (P18)

平均水温は、一部を除き、上流付近で平均水温10程度、平均最高水温20以下程度から徐々に下流に向かうに従って上昇し、下流では平均水温17程度、平均最高水温28~29程度となる

刀水橋、利根大堰付近で、平均が15程度となり、最高は27程度となっている。利根大堰より下流の栗橋からは水温が上昇しており、栗橋から河口付近までは概ね平均17程度で推移している。

また、吾妻川合流前及び板東橋直下については、それぞれの地点の前後の地点との水温差がみられる。

矢木沢ダム、奈良俣ダム、藤原ダムの水温は、冬季のデータが得られていない。

### (4) 河川構造物

#### ・河床材料 (P9)

データの不足する区間があるが、上流域では石や礫、刀水橋や利根大堰付近から下流では砂や泥が主体となる。

#### ・流量 (P19)

流量は、上流から支川の流入や上水、農水、工水の取水、江戸川への分派などにより、複雑な変動が見られる。利根川上流(3)より下流では低水流量でも概ね50m<sup>3</sup>/s程度以上を示している。

#### ・主な河川構造物 (P20)

堰として、綾戸堰、板東堰、利根大堰、利根河口堰があり、綾戸堰、利根大堰、利根河口堰には魚道が設置されている。ダムとして上流に、矢木沢ダム、奈良俣ダム、須田貝ダム、藤原ダムがあり、魚道は設置されていない。

### (5) 魚介類 (P21~P24)

#### 冷水性の魚介類

低温域を好む魚介類は、河川水辺の国勢調査等によると大正橋より上流で連続的に確認されており、ヤマメ、イワナ、ニジマス、カジカが見られる。下流側では安食・河内村でイワナ、小見川・高浜でサケが確認された。上流の奈良俣ダム、矢木沢ダムでは、イワナ、一部でヤマメが確認された。ヒアリング調査によると、ヤマメは坂東大橋より上流、カジカは上武大橋より上流に生息との指摘がある。この他、イワナ・ヤマメ・ニジマス等は沼田市・渋川市付近から上流に生息、利根漁協（赤城村綾戸）の管轄内では生息との指摘もある。漁業協同組合へのアンケート調査によると、坂東大橋より上流で冷水性の魚介類が確認された。

また、毎年行われている利根大堰におけるサケの遡上調査（独立行政法人水資源機構利根導水総合管理所）によると、近年、遡上数は増加傾向であり、平成 18 年の遡上数は 3,215 尾である。ヒアリング調査によると、サケは福島橋付近まで遡上している。

### **温水性の魚介類**

高温域を好む魚介類は、河川において、上流から下流まで全般的に、コイ、フナ類、オイカワ、ウグイ等が確認されている。上流のダム湖沼では、ウグイが全般的にみられ、コイ、フナ類、オイカワ、ドジョウ、ヨシノボリ等も確認されている。

### **その他関連情報**

利根川では、漁業権は、上流から下流まで全般に設定されている。概ね群馬・埼玉県境より上流で冷水性の魚介類の設定が見られる。

### **産卵場及び幼稚仔の生息の場**

水産資源保護法に基づく保護水面はない。

冷水性の魚介類については、ヒアリング調査によれば、坂東大橋から福島橋の間でサケが産卵している。また、ウグイの人工産卵床を設置しているところがある。この他、アユについては、坂東大橋下流の砂礫で産卵している。

## 2. 鬼怒川

### (1) 水域の概況

鬼怒川は、栃木県と群馬県界の鬼怒沼山（標高 2,040m）に源を發し、栃木県塩谷郡藤原町川治地先において男鹿川を合流し溪谷を南下し、板穴小百川、栃木県今市市付近で中禅寺湖を源に發する大谷川（だいやがわ）を合流して、茨城県守谷市大木地先で利根川に合流する利根川の一大支川である。本川の流路延長は 177km、流域面積は、栃木・茨城の両県にまたがり 1,760km<sup>2</sup> に及ぶ。

### (2) 水質

#### ・水域類型指定状況（図：参考資料 2）

既存生活環境項目（BOD、COD、全窒素、全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目）の水域類型指定状況は、河川が鬼怒川(1)、(2)、(3)の3区分で、大谷川合流点より上流がAA類型、大谷川合流点より下流がA類型に指定されている。湖沼は川治ダム貯水池がAA及び 類型、川俣ダム貯水池がA及び 類型に指定されている。

#### ・水質汚濁の状況（P 25～P 28）

BOD75%値の5年平均で見ると、近年（平成12～16年度）は、小佐越地点（補助点）において基準を超過しているが、その他の地点においては、環境基準を満足している。上流の鬼怒川(1)では、0.5～1.2mg/L、鬼怒川(2)では1.0～1.3mg/L、鬼怒川(3)では、1.6～1.8mg/L程度となっている。

湖沼の平成15年～17年のデータを見ると、川治ダム貯水池では、CODの75%値について、1.8～2.2mg/Lで推移している（環境基準1.0mg/L、暫定目標2.0mg/L）。全窒素、全リンについては、全窒素は、環境基準、暫定目標を超過しているが、全リンは、環境基準を達成している（環境基準0.2、0.01mg/L、暫定目標が0.32、0.021mg/L）。

#### ・亜鉛の水質の状況（P 29）

平成16～17年度の年平均の全亜鉛濃度は、概ね0.01mg/L以下である。

なお、鬼怒川水系では、年間排出量が1,000kg超、100kg超、10kg超、1kg超、1kg以下で順に、1、2、3、2、0の事業場がある。（平成16年度PRTRデータより）

### ( 3 ) 水温 ( P 3 0 )

平均水温は、上流の川俣ダム、川治ダム貯水池付近で平均水温 14 程度、平気最高水温 25 以下程度で、その下流では、平均水温 12 程度、平均最高水温 21 程度となり、徐々に下流に向かうに従って上昇し、下流の鬼怒川(3)では平均水温 17 程度、平気最高水温 28~29 程度となる

鬼怒川橋付近で、平均水温が 15 程度となり、平均最高水温は 24 程度となっている。

### ( 4 ) 河川構造物

#### ・ 河床材料 ( P 9 )

データの不足する区間があるが、上流域では石や礫、砂、平方より下流付近から砂や泥が主体となる。

#### ・ 流量 ( P 3 1 )

流量は、下流の平方で、低水流量  $25\text{m}^3/\text{s}$  程度、鬼怒川水海道で、 $28\text{m}^3/\text{s}$  程度である。

#### ・ 主な河川構造物 ( P 3 2 )

堰として、佐貫頭首工、岡本頭首工、勝瓜頭首工がある。上流には、川治ダム、川俣ダムがあり、魚道は設置されていない。

### ( 5 ) 魚介類 ( P 3 3 )

#### 冷水性の魚介類

河川水辺の国勢調査によると、低温域を好む魚介類は、上流では柳田大橋まで見られ、ヤマメ、イワナ、ニジマス、カジカが見られる。川治ダム、川俣ダム貯水池においては、その他、サクラマスも確認されている。下流側では豊水橋下流でサケが確認されている。ヒアリング調査等によると、イワナ、ヤマメ類等は川島橋より上流に生息との指摘がある。

また、ヒアリング調査によると、サケは勝瓜頭首工付近まで遡上している。

#### 温水性の魚介類

高温域を好む魚介類は、河川において、上流から下流まで全般的に、オイカワ、ウグイが確認されており、コイ、フナ等も確認されている。上流のダム湖沼においても、

オイカワ、ウグイが全般的にみられ、コイ、フナ等も確認されている。

#### **産卵場及び幼稚子の生息の場の情報**

- ・ 水産資源保護法に基づく保護水面が、鬼怒川大橋～栄橋で、季節的に設定されている。なお保護対象は水産動植物（9月20日～11月30日まで）となっている。
- ・ ヒアリング調査によると、サケは勝瓜頭首工付近まで遡上している。

### 3 . 江戸川・旧江戸川

#### ( 1 ) 水域の概況

江戸川は、茨城県五霞町・千葉県野田市で利根川から分かれ、茨城県・千葉県・埼玉県・東京都の境を南下して東京湾に注ぐ、流路延長約 60km、流域面積約 200km<sup>2</sup>の河川である。

現在の江戸川の流れは、利根川水系の河川改修工事に伴い江戸時代初期に誕生したもので、当時から「江戸の運河」として舟運に盛んに利用され、主要な水上交通ルートとして栄えてきた。今日のように江戸川と呼ばれるようになったのもその頃のことといわれている。江戸川に注ぐ主な支川には、上流から座生川、利根運河、今上落、坂川、真間川があり、江戸川から分かれる派川には旧江戸川がある。

#### ( 2 ) 水質

##### ・ 水域類型指定状況 ( 図 : 参考資料 2 )

既存生活環境項目 ( B O D、C O D、全窒素、全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目 ) の水域類型指定状況は、河川が江戸川上流、中流、下流(1)、下流(2)の4区分で、栗山取水口より上流がA類型、栗山取水口から江戸川水門までがB類型、江戸川水門から下流及び江戸川旧川がC類型に指定されている。

##### ・ 水質汚濁の状況 ( P 3 4 ~ P 3 7 )

B O D75%値の5年平均で見ると、水質の改善の傾向が見られており、近年 ( 平成 12 ~ 16 年度 ) では、B O Dの環境基準を達成している。平成 15 ~ 17 年度の溶存酸素濃度 ( D O ) は、最小値が環境基準値を下回る地点もある。

##### ・ 亜鉛の水質の状況 ( P 3 8 )

平成 16 ~ 17 年度の年平均の全亜鉛濃度は、概ね 0.02mg/L 以下である。

なお、江戸川・旧江戸川水系では、年間排出量が 1,000kg 超、100kg 超、10kg 超、1kg 超、1kg 以下で順に、1、0、0、0、0の事業場がある。(平成 16 年度 PRTR データより)

#### ( 3 ) 水温 ( P 3 9 )

平均水温は、江戸川上流、江戸川中流まで、平均 16 程度である。江戸川下流(1)では 18 程度、江戸川下流(2)では 17 程度となっている。

平均最高水温は 27～30 以下程度となっている。江戸川下流(1)、(2)は海水の影響を受けていると考えられる。

#### (4) 河川構造物

- ・ 河床材料 ( P 1 0 )  
全域で砂が主体となる。

- ・ 主な河川構造物 ( P 4 0 )

利根川から分派する箇所に関宿閘門があり、旧江戸川と分派後に行徳可動堰がある。旧江戸川には、上流に江戸川水閘門がある。関宿閘門は魚道は設置されていないが、魚類等の遡上は可能である。行徳可動堰、江戸川水閘門には魚道は設置されていない。

#### (5) 魚介類 ( P 4 1 ~ P 4 2 )

##### 冷水性の魚介類

河川水辺の国勢調査 ( 国土交通省、東京都 ) によると、低温域を好む魚介類が、1 地点行徳可動堰上のみでサクラマスが確認されている。

##### 温水性の魚介類

高温域を好む魚介類は、全般的にコイ、フナ類、オイカワ、ボラ等が確認されている。

##### 産卵場及び幼稚子の生息の場の情報

- ・ 水産資源保護法に基づく保護水面はない。

## 4 . 中川

### ( 1 ) 水域の概況

中川は埼玉県羽生市を上流端とし、大落古利根川、新方川、元荒川、大場川など多くの河川をあつめて南下し、東京都葛飾区高砂で新中川を分派する。さらに、中川七曲りと呼ばれる蛇行区間を経て綾瀬川と合流し、上平井で荒川と平行して流れ、江戸川区で東京湾に注ぐ流路延長約 81km、流域面積約 811km<sup>2</sup>の河川である。

### ( 2 ) 水質

#### ・ 水域類型指定状況 ( 図 : 参考資料 2 )

既存生活環境項目 ( B O D、C O D、全窒素、全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目 ) の水域類型指定状況は、中川上流、中流、下流の 3 区分で、全域が C 類型に指定されている。

#### ・ 水質汚濁の状況 ( P 4 2 ~ P 4 6 )

B O D75%値の 5 年平均で見ると、水質の改善の傾向は見られているが、道橋 ( 補助点 ) 地点等において基準を超過しているが、近年 ( 平成 12 ~ 16 年度 ) では、概ね B O D の環境基準を達成している。なお、道橋地点の高い B O D は、上流の生活排水、産業排水の影響と考えられている。平成 15 ~ 17 年度の溶存酸素濃度 ( D O ) は、中川上流と下流で最小値が環境基準値を下回る地点がある。

#### ・ 亜鉛の水質の状況 ( P 4 7 )

全亜鉛は、年度によってばらつきが見られるが、最下流の葛西小橋を除いて、概ね 0.02mg/L 以下である。

なお、平成 16 年に中川下流の葛西小橋で 0.03mg/L 程度となったが、一時的なものであり、原因は不明である。

なお、中川水系では、日排出量が 1,000kg 超、100kg 超、10kg 超、1kg 超、1kg 以下で順に、1 , 0 , 0 , 0 , 2 の事業場がある。(平成 16 年度 P R T R データより)

### ( 3 ) 水温 ( P 4 8 )

平均水温は、平均 16 ~ 18 程度、最高 27 ~ 29 以下程度となっている。

最低水温は、八丈橋と都県境 ( 潮止橋 ) の間で 5 程度から 8 程度へ上昇している。

#### ( 4 ) 河川構造物

- ・ 河床材料 ( P 1 0 )

データの不足する区間があるが、砂や泥が主体となる。

- ・ 主な河川構造物 ( P 4 9 )

本川上に、特に堰等河川構造物の設置はない。

#### ( 5 ) 魚介類 ( P 5 0 )

##### 冷水性の魚介類

低温域を好む魚介類は、河川水辺の国勢調査等によると確認されていない。

##### 温水性の魚介類

高温域を好む魚介類は、河川において、上流から下流まで一般的に、コイ、フナ類、ボラ等が確認されている。

また、一部の地点ではアユも確認されている。

##### 産卵場及び幼稚子の生息の場の情報

- ・ 水産資源保護法に基づく保護水面はない。

## 5 . 綾瀬川

### ( 1 ) 水域の概況

綾瀬川は埼玉県桶川市を上流端とする流路延長約 47km、流域面積約 176km<sup>2</sup> の河川である。草加市で古綾瀬川、都県境の花畑地先で伝右川と毛長川を合わせ、葛飾区上平井で中川に合流している。

### ( 2 ) 水質

・ 水域類型指定状況 ( 図 : 参考資料 2 )

既存生活環境項目 ( B O D、C O D、全窒素、全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目 ) の水域類型指定状況は、綾瀬川上流、下流の 2 区分で、全域が C 類型に指定されている。

・ 水質汚濁の状況 ( P 5 1 ~ P 5 4 )

B O D75%値の 5 年平均で見ると、手代橋 ~ 内匠橋の間で 30mg/L 程度だったものが、近年、水質の改善傾向が見られ、7mg/L 以下になっている。しかしながら、環境基準は未達成である。近年の濃度は、全域で 3 ~ 7mg/L 程度となっている。なお、近年の綾瀬川の汚濁は生活系の影響が大きいと考えられている。

平成 15 ~ 17 年度の溶存酸素濃度 ( D O ) は、全地点で最小値が環境基準値を下回っている。

・ 亜鉛の水質の状況 ( P 5 5 )

全亜鉛は、年度によってばらつきが見られるが、綾瀬川下流の手代橋、桑袋大橋、内匠橋地点において、年平均が 0.03mg/L 程度となる年が見られるが、原因は不明である。

なお、綾瀬川では、日排出量が 1,000kg 超、100kg 超、10kg 超、1kg 超、1 kg 以下で順に、0 , 0 , 1 , 0 , 1 の事業場がある。(平成 16 年度 P R T R データより)

### ( 3 ) 水温 ( P 5 6 )

平均水温は、全域で平均 17 ~ 18 程度、最高 28 ~ 29 程度となっている。

最低水温は、6 ~ 8 程度になっている。

### ( 4 ) 河川構造物

- ・ 河床材料（ P 1 0 ）  
データの不足する区間があるが、泥が主体となる。

- ・ 主な河川構造物（ P 5 7 ）  
本川上に、特に堰等の設置はない。

## （ 5 ） 魚介類（ P 5 8 ）

### 冷水性の魚介類

低温域を好む魚介類は、河川水辺の国勢調査（国土交通省、東京都、埼玉県）等によると確認されていない。

### 温水性の魚介類

高温域を好む魚介類は、上流から下流まで全般的に、コイ、フナ、ボラ、テナガエビ等が確認されている。

また、一部の地点ではアユが確認されている。

### 産卵場及び幼稚子の生息の場の情報

- ・ 水産資源保護法に基づく保護水面はない。
- ・ 人工産卵床を毎年造成している箇所がある。

## 6 . 渡良瀬川

### ( 1 ) 水域の概況

渡良瀬川は、栃木県足尾町と群馬県利根村の境にある皇海山にその源を発し、幾つもの溪流を合わせながら、大間々町で山峡の地を離れ、以後桐生市、足利市の中心を南東に流下し、藤岡町で渡良瀬遊水地に注いでいる。途中の支川を合流させると流域面積 2,621km<sup>2</sup>、幹川流路延長 107km の利根川水系最大の支川である。

### ( 2 ) 水質

#### ・ 水域類型指定状況 ( 図 : 参考資料 2 )

既存生活環境項目 ( B O D、C O D、全窒素、全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目 ) の水域類型指定状況は、河川が渡良瀬川上流、渡良瀬川(1)、(2)、(3)、(4)の5区分で、桐生川合流点より上流がA類型、桐生川合流点より下流がB類型に指定されている。

草木ダム貯水池は湖沼としてA及び B 類型に指定されている。

#### ・ 水質汚濁の状況 ( P 5 9 ~ P 6 2 )

B O D75%値の5年平均で見ると、近年は、概ね環境基準を達成しているが、渡良瀬川(3)の新開橋地点で環境基準値を超過している。平成 15 ~ 17 年度の溶存酸素濃度 ( D O ) は、全域で最小値が環境基準値を満足している。

草木ダム貯水池は、平成 15 年 ~ 17 年のデータを見るとC O D、全リンの環境基準を達成している。基準設定のない全窒素は、0.7 ~ 0.9mg/L。

#### ・ 亜鉛の水質の状況 ( P 6 3 )

全亜鉛は、年度によってばらつきが見られ、小平取水口、新开橋、三国橋地点で0.03mg/L を超過する年がある。継続した超過は見られていない。超過原因は不明である。

なお、渡良瀬川では、年間排出量が 1,000kg 超、100kg 超、10kg 超、1kg 超、1 kg 以下で順に、0 , 0 , 2 , 0 , 0 の事業場がある。(平成 1 6 年度 PRTR データより)

### ( 3 ) 水温 ( P 6 4 )

平均水温は、草木ダムより上流の沢入発電所渡良瀬取水堰で平均水温 11 程度、平均最高水温 21 程度から徐々に下流に向かうに従って上昇し、下流では平均水温 17

程度、平均最高水温 28 程度となる

錦桜橋、太田頭首工、太田市境界、葉鹿橋付近で、平均水温が 15 程度となり、平均最高水温は 25 程度となっている。

#### ( 4 ) 河川構造物

##### ・ 河床材料 ( P 9 )

データの不足する区間があるが、渡良瀬大橋から上流では、石、礫が主体となる。

##### ・ 流量 ( P 6 5 )

低水流量は、高津戸で  $6\text{m}^3/\text{s}$  程度、足利で  $6\text{m}^3/\text{s}$  程度、早川田上で  $8\text{m}^3/\text{s}$  程度、藤岡で  $12\text{m}^3/\text{s}$  程度となっている。

##### ・ 主な河川構造物 ( P 6 6 )

堰やダムとして上流から、草木ダム、大間々頭首工、太田頭首工、岩井分水堰、邑楽頭首工がある。草木ダムには魚道は設置されていない。岩井分水堰には魚道は設置されていないが、魚類等の上下流の移動に大きな支障とはならない。

#### ( 5 ) 魚介類 ( P 6 7 ~ P 7 0 )

##### 冷水性の魚介類

低温域を好む魚介類は、河川水辺の国勢調査 ( 国土交通省 )、藤岡市、藤岡町史自然編によると、ヤマメ、イワナ、ニジマス、カジカが確認されている。カジカは岩井山右岸地点より上流で、ヤマメは錦桜橋地点より上流で、イワナは貴船橋地点より上流で確認されている。ニジマスは連続してみられないが、緑橋下流地点より上流で確認されている。ヒアリング調査等によると、ヤマメは高津戸付近から葉鹿橋付近より上流で生息、あるいは渡良瀬大橋付近より上流で生息との指摘がある。

また、ヒアリング調査によると、サケは、栃木県旗川から群馬県桐生市付近まで遡上している。

##### 温水性の魚介類

高温域を好む魚介類は、上流から下流まで全体的にみられ、コイ、フナ類、オイカワ、ウグイ等が確認されている。コイ、フナ類は、連続的ではないが、下流から草木ダム湖内まで、オイカワは、貴船橋地点まで、ウグイは上流の沢入橋地点まで確認さ

れている。

また、アユが確認されている地点がある。

#### **産卵場及び幼稚子の生息の場の情報**

- ・ 水産資源保護法に基づく保護水面は、設定されていない。
- ・ ヒアリング調査によると、サケは、栃木県旗川から群馬県桐生市付近まで遡上している。
- ・ ウグイの人工産卵床を毎年造成している箇所がある。

## 7. 神流川

### (1) 水域の概況

神流川は、三国山の西側より多野山地へ曲がりくねりながら流れ、下久保ダムを通り、群馬県と埼玉県の県境を流れ、新町地先で烏川に注いでいる。流域面積は407km<sup>2</sup>、流路延長は87.4kmである。

### (2) 水質

#### ・水域類型指定状況（図：参考資料2）

既存生活環境項目（BOD、COD、全窒素、全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目）の水域類型指定状況は、河川が神流川(1)、(2)、(3)の3区分で、烏川より上流の全域がA類型に指定されている。下久保ダム貯水池は湖沼としてA及びB類型に指定されている。

#### ・水質汚濁の状況（P71～P74）

BOD75%値の5年平均で見ると、近年は、環境基準を達成している。平成15～17年度の溶存酸素濃度（DO）は、神流川橋、藤武橋で、最小値が基準に達していない年がある。

下久保ダム貯水池は、平成15年～17年のデータを見るとCOD、全リンの環境基準を達成している。基準設定のない全窒素は、1.1～1.3mg/L。

#### ・亜鉛の水質の状況（P75）

全亜鉛は、平成15～17年度において計測された3地点は、0.02mg/Lである。

なお、神流川流域では、亜鉛の排出量が報告されている事業場はない。（平成16年度PRTRデータより）

### (3) 水温（P76）

平均水温は、森戸橋地点で平均水温13程度、平均最高水温26程度から徐々に下流に向かうに従って上昇する傾向がみられ、下流の神流川橋地点では平均水温17程度、平均最高水温27程度となる

下久保ダム付近で、平均水温が15程度となり、平均最高水温は25程度となっている。

#### (4) 河川構造物

- ・ 河床材料 ( P 9 )

データの不足する区間があるが、下流域は石が主体となる。

- ・ 主な河川構造物 ( P 7 7 )

堰やダムとして上流から、下久保ダム、神流川合口堰がある。このうち、神流川合口堰には魚道が設置されている。

#### (5) 魚介類

##### 冷水性の魚介類 ( P 7 8 )

低温域を好む魚介類は、河川水辺の国勢調査、上野村誌、神泉村誌によると、ヤマメ、イワナ、ニジマス、カジカが確認されている。ヤマメ、ニジマス、カジカは渡戸橋～神水湖地点より上流で、イワナは上流部の上野村内地点で確認されている。ヒアリング等によると、概ね下久保ダムから上流がイワナ・ヤマメの生息域といった指摘がある一方、神流川橋まで出現との指摘もある。ただし、埼玉県の下流側については、児玉群市漁協の管轄分岐点とすると、渡戸橋より下流ではイワナ・ヤマメは生息するものの、ごくわずかとの指摘がある。

##### 冷水性の魚介類

高温域を好む魚介類は、上流から下流まで全体的にみられ、コイ、フナ類、オイカワ、ウグイ等が確認されている。

また、アユ、ワカサギが確認されている。

##### 産卵場及び幼稚子の生息の場の情報

- ・ 水産資源保護法に基づく保護水面は、設定されていない。
- ・ ウグイの人工産卵床を造成しているが、毎年場所は変更している。

## 8 . 荒川

### ( 1 ) 水域の概況

荒川は、埼玉県秩父山地の甲武信ヶ岳(標高2,475m)にその源を発する。山岳地帯には、中津川・滝川・大洞川等の各支川が刻むV字谷溪谷が形成され、それらの支川を合わせながら東へと流れている。

山岳地帯を抜けると、川の勾配がゆるやかになり、水勢も弱まるため、上流から運ばれてきた砂礫が河床に堆積しているのが特徴である。

特に寄居から熊谷大橋(埼玉県熊谷市、江南町)付近までは、砂礫が堆積している上に流路が乱変しており、植松橋(埼玉県川本町)を扇頂とする扇状地形が形成されているため、寄居地点より兩岸には堤防が築かれている。

岩淵地点(東京都北区)で隅田川を分派し、荒川放水路として東京湾に注ぐ。流域面積は、2,940km<sup>2</sup>、流路延長は173.0kmである。

### ( 2 ) 水質

#### ・水域類型指定状況(図:参考資料2)

既存生活環境項目(BOD、COD、全窒素、全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目)の水域類型指定状況は、荒川上流(1)、(2)、荒川中流、荒川下流(1)、荒川下流(2)の5区分で、中津川合流点より上流がAA類型、中津川合流点から熊谷までがA類型、熊谷から秋が瀬取水堰までがB類型、秋が瀬取水堰から下流がC類型に指定されている。二瀬ダム貯水池は湖沼としてA及びB類型に指定されている。

#### ・水質汚濁の状況(P79~P83)

BOD75%値の5年平均で見ると、水質の改善傾向がみられており、近年は環境基準を概ね達成している。秋ヶ瀬取水堰と笹目橋の間で、大きく変化しており、秋ヶ瀬取水堰より上流は2mg/L未満であり、笹目橋より下流では2~5mg/Lとなる。平成15~17年度の溶存酸素濃度(DO)は、荒川下流(2)において、最小値が環境基準値を下回っている。また、荒川上流(2)において、最小値が環境基準を下回る年が見られた。

#### ・亜鉛の水質の状況(P84)

全亜鉛は、全域で0.02mg/L程度以下である。

なお、荒川流域では、日排出量が1,000kg超、100kg超、10kg超、1kg超、1kg以

下で順に、1, 2, 1, 1, 2の事業場がある。(平成16年度PRTTRデータより)

### (3) 水温 (P85)

平均水温は、二瀬ダム湖心地点で平均水温 13 程度、平均最高水温 23 程度、その下流中津川合流点前では、平均水温 11 程度、平均最高水温 21 程度となり、秋ヶ瀬取水堰付近まで徐々に下流に向かうに従って上昇する傾向がみられる。久下橋から秋ヶ瀬取水堰までは平均水温 15 程度であり、笹目橋より下流では、葛西橋まで平均水温が 18 程度、平均最高水温 28 程度で大きな変化がみられない。

### (4) 河川構造物

#### ・ 河床材料 (P11)

データの不足する区間があるが、上流から正喜橋付近までが岩、それから下流の久下橋までが礫、それより下流は砂が主体となる。

#### ・ 流量 (P86)

流量は、寄居地点において低水流量が  $8\text{m}^3/\text{s}$  程度、大芦橋地点で  $6\text{m}^3/\text{s}$  程度となっている。

#### ・ 主な河川構造物 (P87)

上流から堰やダム等として、二瀬ダム、玉淀ダム、六堰、明戸サイフォン、秋ヶ瀬取水堰がある。このうち、二瀬ダム、玉淀ダム、明戸サイフォンには魚道の設置はない。ただし、明戸サイフォンについては、現在魚道の設置工事を行っている。

### (5) 魚介類 (P88 ~ P91)

#### 冷水性の魚介類

低温域を好む魚介類は、河川水辺の国勢調査等によると、ヤマメ、イワナ、ニジマス、カジカが確認されている。ヤマメは長瀬町内より上流で確認されている。カジカは、長瀬町内から大滝村内まで確認されている。イワナは、大滝村内、ニジマスは、皆野町内で連続的ではないが、確認されている。ヒアリング等によれば、イワナは秩父市より上流、ヤマメは玉淀ダムより上流、カジカは長瀬町より上流に生息との指摘がある。

#### 温水性の魚介類

高温域を好む魚介類は、上流から下流まで全般的に、コイ、フナ類、オイカワ、ウグイ、ボラ等が確認されている。コイは、下流から秩父市内まで、フナ類は、ほぼ全域で、オイカワは、笹目橋周辺から荒川村内まで、ウグイは戸田橋周辺から上流まで、ボラは下流からＪＲ武蔵野線鉄橋まで確認されている。

また、一部の地点ではアユ、ワカサギが確認されている。

#### **産卵場及び幼稚子の生息の場の情報**

- ・ 水産資源保護法に基づく保護水面が、玉淀ダムから正喜橋まで設定されている。保護対象は、ウグイ、アユである。
- ・ ウグイの人工産卵床を造成している箇所がある。

## 9. 霞ヶ浦、北浦、常陸利根川

### (1) 水域の概況

霞ヶ浦、北浦、常陸利根川は、茨城県南東部の低平地に位置する自然淡水湖沼である。水面積は約 220km<sup>2</sup> で、琵琶湖に次いで、国内第 2 位の広さを有する。流域面積は、2,157km<sup>2</sup> である。

### (2) 水質

・水域類型指定状況（図：参考資料 2）

既存生活環境項目（BOD、COD、全窒素、全リン等の水生生物保全環境基準を除く項目）の水域類型指定状況は、霞ヶ浦、北浦、常陸利根川それぞれ、湖沼として A 及び B 類型に指定されている。

・水質汚濁の状況（P 96，P 99，P 102）

平成 15～17 年度の環境基準点における COD75%値をみると、霞ヶ浦は 7.7～9.0mg/L、北浦が 8.1～9.3mg/L、常陸利根川が 3.2～4.2 mg/L を示しており、環境基準を達成していない。溶存酸素濃度（DO）は、年度により、最小値が環境基準値を下回っている。

・亜鉛の水質の状況（調査中）

霞ヶ浦、北浦、常陸利根川において、全亜鉛に関する調査データについては調査中である。

なお、流域では、日排出量が 1,000kg 超、100kg 超、10kg 超、1kg 超、1kg 以下で順に、0，1，1，0，1 の事業場がある。（平成 16 年度 P R T R データより）

### (3) 水温（P 96，P 99，P 102）

平均水温は、霞ヶ浦で平均水温 16～18 程度、平均最高水温 28～30 程度、北浦で平均水温 17～18 程度、平均最高水温 28～30 程度、常陸利根川で、平均水温 17 程度、平均最高水温 28 程度である。

### (4) 河川構造物

・河床材料（P 9）

河床材料は砂と泥が主体となる。

- ・ 主な河川構造物（P 1 0 3）

常陸利根川最下流部に、常陸川水門が設置されている。常陸川水門は、平成 21 年に魚道が完成する予定である。

## （ 5 ） 魚介類（ P 1 0 4 ~ P 1 0 5 ）

### 冷水性の魚介類

河川水辺の国勢調査（国土交通省、平成 16 年度）、定置網漁獲調査（茨城県、平成 13 年度）によると、低温域を好む魚介類は、確認されていない。

### 温水性の魚介類

高温域を好む魚介類は、霞ヶ浦、北浦、常陸利根川の調査地点全てで確認されており、コイ、フナ類、オイカワ、ボラ、シラウオ等が確認されている。

### 産卵場及び幼稚子の生息の場の情報

- ・ 水産資源保護法に基づく保護水面が設定されている。霞ヶ浦には出島地区と美浦地区、北浦には麻生地区と大野地区が対象である。